

## 「新たなジョブローテーションの実施」妥結にあたっての中央本部見解

JR東労組中央本部は、8月30日、「変革2027を踏まえた新たなジョブローテーションの実施について」及び「賃金制度等の改正について」の交渉議事録を締結し、妥結した。

3月28日の提案以降、「安全性の低下を招かないようにすること」「年功賃金と雇用を確保すること」「労働条件の向上と組織強化・拡大」を柱に掲げ、鉄道輸送の命である安全レベルの維持向上と時代の変化を捉え組合員の雇用と利益を守るために施策に向き合ってきた。そして組合員の声を基に練り上げた「JR東労組の要求」を組織の意思へと高め、延べ31時間にわたる2回の解明交渉と5回の基本交渉を行い、職場からの要求実現に向けて団体交渉をつくり上げた。タイトなスケジュールで、不安や葛藤が渦巻く中、本部交渉を共にたたかったすべての仲間の皆さんに心より感謝いたします。

交渉では、今施策において終身雇用・年功賃金の雇用契約を変更することではないことを確認するなど、組合員の不安を払拭し納得感を勝ち取るための議論を重視した。職場では、施策が打ち出される諸情勢の認識も深め、組合員の問題意識を高めつつ「新たなジョブローテーション」に「挑む」体制もつくり上げた。また、あらゆる職場でJR東労組運動を担う決意をうち固め、組織を強化するという課題も明確になった。

鉄道にとって多くの経験が安全・サービスレベルの向上に繋がることを重視し、フォアマン層の役割の重要性について議論を深めた。乗務員の人材育成・技術継承の主軸となる指導担当についても特に議論を深め、職場の特情に考慮したフォアマン層の育成、配置を行う共通認識をつくり上げた。そして同一担務での経験を積むこともキャリアステップであることや、キャリアを積んだ後さらに自身のキャリアを活かすための元職場、元担務への配置の道も選択肢の一つであることを確定させた。また、任用の基準に留まらず本人希望を把握することを確認した。従って、自ら描いたキャリアを実現するために、今後行われる秋の面談では希望を正確に伝えることが重要だ。

さらに、「賃金制度等の改正」では、ジョブローテーションに直接関わらない車両、施設、電気職場の仲間たちのキャリアステップについても会社に要求した。担務変更、人事交流、技術交流の中で間違いなく労働力の質は上がっていく。しかし「職名」が変わらないことでキャリアに対する評価に差ができてしまう。この現実を是正するために「キャリア加算」の考え方について、職名ではなく実際の担務で加算するよう組合から問題提起した。今回の交渉では実現しなかったが、ジョブローテーション以外の系統においても、キャリアステップについて大事な観点であることを労使で認識一致した。今後の課題として継続議論していく。

今回新たな制度をつくり上げる議論は、厳しい組織現実の中で、数々の困難に直面しながら一つひとつの課題を切り拓いたたたかいであった。職場の組合員の率直な声、問題意識の転換がそれを可能とした。これが新生JR東労組のたたかいである。

このたたかいを、組合員のみならず離脱を余儀なくされた方たちにも広げ、労働組合の意義を再認識していただき、組織拡大へと結実させようではないか！今後、施策検証のたたかいに突入する。「安全、健康、ゆとり、働きがい」の創出に向け、JR東労組はたたかい続けることを明らかにし見解とする。

2019年8月31日  
東日本旅客鉄道労働組合  
中央執行委員会